



Photo: Shiro MURAMATSU



SPORT FOR TOMORROW

NEWSLETTER Vol.1

www.sport4tomorrow.jp/jp/



Photo: Takeshi Kuno / JICA



オールジャパンで「スポーツの力」を世界に届ける。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催国として、日本は政府、企業、競技団体、教育機関、NGO、自治体の力を結集し、「スポーツの力」を世界の人々に届けていきます。全ての人がスポーツの力を感じ、体現する機会、環境を創る。そしてスポーツのインテグリティを守り、健全なスポーツの普及に貢献する。2020年へ。そしてその先へ。ひとつひとつの積み重ねが、世界を変える大きな一歩になる。私たちはオールジャパンの力を結集して、スポーツの力でよりよい未来を創ります。

発足からおよそ1年、すでに世界各地で様々なスポーツ・フォー・トゥモロー・プログラムが展開されています。本号では、スポーツ・フォー・トゥモローに携わる方々の声や想い、実際の活動事例などをご紹介します。

スポーツ・フォー・トゥモローの発足から、およそ1年。
これまでの取り組みや今後に向けた期待について、関係団体の方々にお話を伺いました。

国際協力機構（JICA） 三次啓都氏 インタビュー

一過性のプロジェクトではなく、2020年以降も見据えて

**Q. スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム
（以下、SFTC）の設立からおよそ1年が経ちますが、
ご自身の想いや周囲の状況に変化はありましたか。**

（三次）スポーツ・フォー・トゥモロー（以下、SFT）の準備には私たちJICAも関わってきましたが、当時考えていたことが、現在具体化してきているという醍醐味があります。また、個人的にはJICAでスポーツを通じた国際協力という仕事に携わるとは思っていなかったのが、驚きと面白さを感じています。まだまだスポーツが国際協力の主流にはなっていないかと思いますが、スポーツという単語が国際協力の世界に入ってきたことはとても大きな変化だと思います。

**Q. 実際にSFTを進めていく中で
感じられている課題はありますか。**

（三次）私たちもまだ試行錯誤の段階ですが、3つのことを感じています。1つは、スポーツと国際協力をどう結び付けていくかについては、国内でもさらに理解を深めていく必要があります。2つ目は、スポーツ界の方々は主にアジアへの意識が高く、なかなかアフリカや中南米まで支援が届かないという距離感がありますので、そこを乗り越えていかなければなりません。3つ目は、障がい者スポーツの世界にも、今後より踏み込んでいきたいということです。

**Q. 課題の解決に向けて、SFTに期待することやSFTCの
運営委員として実現したいことを教えてください。**

（三次）例えば、障がい者スポーツに関しては、昨今メディアでも注目されていますが、自国のアスリート育成が重視され、海外に広げていくという視点がまだ十分ではないと感じます。SFTが、その状況を変えることに寄与できたら素晴らしいと思います。スポーツは、自国の選手だけでなく、海外の選手もいて競技として成立する側面もありますから。更に、競技団体ではトップアスリートへ関心が行きがちですが、国際

協力の分野では、より底辺の基礎的な体育の普及や技術の向上に取り組んできているので、SFTの中で、ボトムの世界とナショナルチーム支援などトップの世界を繋げる相互補完もできればと思います。

**Q. これから2020年に向けてSFTに期待
すること、2020年以降のSFTへの
想いをお聞かせください。**

（三次）2020年に、これまで支援した海外の人たちが選手として来日する、海外ボランティアをしてきた人が五輪をサポートする、といったことに繋がればとても良いと思います。一方で、2020年は境目でもなく、今の取組みの延長線にある話ですから、その後も継続し、より深い支援を行っていきたく考えています。

スポーツを通じた国際協力は最近の潮流になりつつありますが、急にメジャーになりすぎて一過性のものにならないように大事にしていくべきでしょう。すぐに支援の主流にはならなくても、様々な場所に、体育やスポーツの支援が広がり、下支えの役割を果たせると良いなと思います。また、スポーツを通じた国際協力を担う人が今後どれだけ出てくるかが大きな関心事です。その担い手は、アスリートだけではなく、海外で活動しようと思ってくれる人を見つけ、育てる必要があります。そのためにも、スポーツを通じた国際協力を仕事にできるような環境も、作っていかねばなりません。



独立行政法人国際協力機構
（JICA）
青年海外協力隊事務局審議役
三次 啓都 氏



国際武道大学 松井完太郎氏

学生達に与えられたチャンス

カンボジアで学生達と体育・スポーツ支援活動を始めて12年。現地のフィールドに出て学んだ歴代の学生達は、臨機応変に行動する指導力を身に付けてきました。活動を始めた当初「40年後のオリンピックで活躍するカンボジア選手の姿を中継で見ながら『この礎を築く手伝いをしたんだ』と膝の上の孫に話そう」と学生達は誓い合っていました。

今年はスポーツ・フォー・トゥモロー認定事業となり、SFTの大きなペナントと共に渡航しました。活動する小学校の校庭に到着すると、学生達は誇らしげにSFTのペナントを校庭に掲げます。心意気は日本代表。1人ひとり、たった1人で日本を代表するのです。

オリンピック・パラリンピックのレガシーを築く。これはオリンピック・パラリンピックのみに与えられるチャンスではありません。胸に日の丸の刺繍は無い。報酬や補助も無い。しかし、日本国がIOC総会で世界にした約束を果たす一翼を担う活動です。そういう物語が、学生を鼓舞するのです。

SFTの数値目標は2020年に達成します。しかし、オリンピック・パラリンピックのレガシーを築く活動であるのだから、ゴールはその先です。レガシーの具現として、2021年以降も異国の現場に立ちつづけていきたいと思っています。



国際武道大学
体育学部 体育学科 教授
学部長
松井 完太郎 氏

福岡県 篠原一洋氏

アジアの交流拠点「福岡」から、国際スポーツ交流を

今年7月、アジア太平洋33ヶ国・210名の子ども達が、綱引きや応援合戦など日本独特の運動会を楽しみました。参加した各国の子ども達は、綱引きで掛け声にあわせ力を出し切ったり、応援合戦で体中から大声を出したりと元気いっぱいスポーツを楽しみました。運動会の後には、「楽しかった」「またやってみたい」と笑顔と元気いっぱいの子どもの姿があふれていました。

27年目を迎えた、このアジア太平洋子ども会議・イン福岡は、交流を継続して実施することで、過去の参加者による協力やこの事業以外での交流が生まれるなど、単なる国際交流イベントから地域や学校を広範に巻き込んだ国際交流プログラムへと効果を広げています。

言葉や習慣を越えスポーツを楽しむスポーツ・フォー・トゥモロー事業をととして、今まで以上に世界との広く深い交流を生み出していけるものと期待しています。

古くからアジアの交流拠点として発展してきた福岡から、国際スポーツ交流の拠点として、今後も世界の子ども達に元気や笑顔を届ける事業を行っていきます。



福岡県
新社会推進部
県民文化スポーツ課 課長
篠原 一洋 氏

日本サッカー協会（JFA） 田嶋幸三氏

アジアの代表として、サッカー、スポーツの発展のために

2002年のFIFAワールドカップを機に日本サッカー協会（JFA）は国際サッカー連盟（FIFA）や各国のサッカー協会との絆を強め、そこから多くのことを学びました。また、小倉純二名誉会長が2002年から9年間にわたってFIFA理事を務めたことで、日本サッカーの国際化が一段と進みました。

このように、FIFAの理事メンバーとして世界の動向や問題をいち早く把握し、意思決定の場にいることは非常に重要です。

JFAはこれまでアジア各国に日本人指導者を派遣したり、各国の視察団やチームを受け入れるなど、サッカーを通じて国際交流を進めてきました。今年3月には、中央アジア6カ国のU-15チームを日本に招聘し、U-15サッカー交流大会を開催しました。非常にレベルが高く、参加各国、そして日本にとっても有意義な大会となりました。大会に併せて開催したセミナーでは、各国の協会役員も大会運営やマーケティングなどの知識を深めました。スポーツ・フォー・トゥモローにより、このような機会が提供できることで、スポーツにおける日本の役割を高めていくことができます。

こうした実績があって、私は今年5月に日本で4人目のFIFA理事に就任することができました。今後もアジアの代表として各国のサッカー発展や健全な組織運営、競技力向上のためにまい進していく所存です。また、紛争地域や貧困の中にいる子どもたちが思う存分サッカーを楽しめるような施策も講じていきます。

今後もスポーツ・フォー・トゥモローを通じてより充実した国際貢献ができるよう、各国のスポーツ団体のニーズに合ったプログラムを柔軟に実施できるような枠組みの設定を期待しています。



(公財) 日本サッカー協会 (JFA)
副会長
国際サッカー連盟 (FIFA)
理事
田嶋 幸三 氏

オットーボック・ジャパン 佐竹光江氏

手探りのランニングクリニック開催、感謝と今後への想い

8月21日～23日、日本大学（東京）において、大腿切断者向けのランニングクリニックを開催いたしました。指導者としてロンドンパラリンピック100m、金メダリストのハインリッヒ・ポポフ選手と北京パラリンピック走幅跳、銀メダリストの山本篤選手を迎え、12名の大腿切断者にご参加いただきました。10代から50代までと年齢層も幅広く、既に競技出場されている方から切断後初めて走るという方まで様々なレベルの方が、球技等も交え、スポーツ義足での走り方を基礎から学びました。両選手の熱意のある指導のもと、和気あいあいとした雰囲気の中、参加者の皆様が積極的に取り組む姿に元気と勇気をいただいた3日間になりました。

スポーツ・フォー・トゥモロー認定事業として、SFTC事務局からは広報活動におけるサポートもいただき、当日の様子は複数のメディアにも取り上げていただきました。

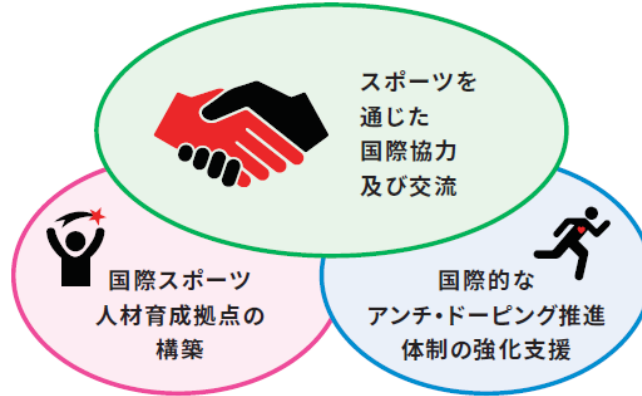
日本での開催が初めてで全てが手探り状態でしたが、大盛況の内に終了することができましたのは、日本パラ陸上競技連盟、日本大学の皆様をはじめとする多くの方のご協力の賜物です。今後も継続して欲しいとの意見を多数いただき、次回もSFTC会員の皆様と積極的に連携をとり、さらに充実した内容で開催できればと考えております。今回ご助言、ご協力をいただいた全ての皆様にあらためて感謝申し上げます。



オットーボック・ジャパン（株）
佐竹 光江 氏

スポーツ・フォー・トゥモローの活動領域

スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを普及させるための活動は、以下の3つの柱から構成されています。



スポーツを通じた国際協力及び交流

主に開発途上国を対象として、ハード・ソフトの両面からスポーツを通じた国際協力及び交流を促進しています。

コートジボワール
空手道場の新設/
大会の開催



アジア・オセアニアの
若者招へい
国連ユースリーダーシップ
キャンプの開催



国際スポーツ人材育成拠点の構築

将来の国際スポーツ界のリーダーを育成するために、国内外の若者等を対象とした大学院修士コースの開設と、日本文化やスポーツマネジメントなどを学べる短期セミナーを開催しています。

筑波大学
つくば国際スポーツアカデミー (TIAS)



エルサルバドル
卓球の普及 / 育成



アジア各国
サッカー人材の
育成 / 交流支援



日本体育大学
コーチ育成者養成
アカデミー



鹿屋体育大学
国際スポーツアカデミー



国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援

日本アンチ・ドーピング機構は、ユース世代やリーダーを育成するための教育プログラムの開発・提供や、スポーツの価値を守り、その価値を広める活動を、各アンチ・ドーピング関係機関らと連携し、展開しています。

国際シンポジウムの
開催



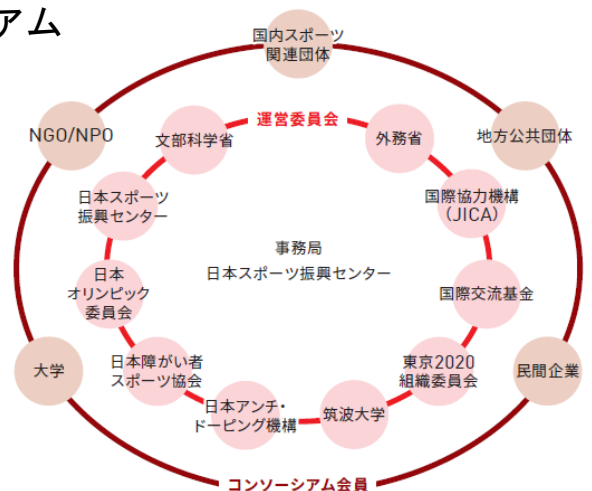
ベトナム / カンボジア
教育セッションの開催



スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム

SPORT FOR TOMORROWは、「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム」により運営されています。

文部科学省や外務省を中心とした「運営委員会」と、SFTの趣旨に賛同し、スポーツを通じた国際貢献に携わる団体から成る「コンソーシアム会員」にて構成されたネットワークです。



活動事例

運営委員会各団体が行う事業に加え、会員のみなさまによる「スポーツ・フォー・トゥモロー認定事業」も着々と展開されています。また今夏には、業界を超えた複数の団体による連携事業も実現しました。今後も、官民の力を相互に活用し、オールジャパンの体制でスポーツ・フォー・トゥモローを推進していきます。



2015年2～3月 カンボジア「運動会・体育支援プロジェクト」

カンボジアにおける体育授業の定着をサポートすることを目的に、国際武道大学の学生たちが中心となり実施・運営。現地の小学校教員養成学校の学生をサポートしながら運動会を共同開催し、3つの小学校で合計638名の生徒たちが参加しました。また、運動会の運営マニュアルや体育実技指導書を配付しました。



2015年5月 ブラジル「講道館(柔道)レクチャー・デモンストレーション・ワークショップ」

日伯修好120周年記念事業の一環として、在サンパウロ日本国総領事館が主催。サンパウロ地域の日系学校のブラジル人生徒およそ100名が参加しました。約200万人もの柔道人口を抱えるブラジルでは、柔道は高い関心を持たれています。大人数の柔道指導者を日本から迎えることは今回の事業が初めてで、二国間のスポーツ交流が活性化される機会になりました。



2015年7月 福岡「アジア太平洋子ども会議・イン福岡 スポーツ交流事業」

地方自治体による初めてのSFT認定事業。日本に対する理解促進や異文化交流を図るべく、海外33ヶ国・地域の子どもたち210名が、スポーツを通じた交流や、日本独特の種目を体験しました。また、「アビスパ福岡・ふれあいサッカー教室」にも50名の海外の子どもたちが参加。Jリーガーによる指導を受けながら、ホームステイ先の日本の子どもたちとサッカー体験を共有しました。



2015年7～8月 モンゴル「スペシャルオリンピックス代表チーム・特別支援学校への卓球支援」

株式会社アシックス、日本卓球協会、日本卓球株式会社による連携事業。スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルスに出場した卓球モンゴル代表チームへのユニフォーム・用具の提供、またモンゴル国内の特別支援学校の競技環境支援(卓球台、用具の提供)を実施しました。日本卓球協会からの相談をきっかけに、SFTC事務局が調整を行い、アシックス、日本卓球両社のサポートを得て成立した事業です。

コンソーシアム会員募集のお知らせ

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムでは、SPORT FOR TOMORROWの活動を共に推進いただく「コンソーシアム会員」を募集しています。すでに会員になられている皆様からのご紹介も歓迎しておりますので、事務局までお気軽にお問い合わせください。

認定事業募集のお知らせ

会員の皆様による「スポーツ・フォー・トゥモロー認定事業」の申請も随時お受けしています。事業ニーズに応じ、他会員のご紹介やマッチング支援を行える場合もございますので、事務局までお気軽にご相談・お問い合わせください。

SPORT FOR TOMORROW 今後の主な国内でのイベント予定 (2015年10月)

10月1日(木)・2日(金)
2015国際アスリートフォーラム for 2020

JADA主催。リーダーズディスカッション(1日目)、アスリート対象のワークショップ(2日目)等を通じ、スポーツの価値に基づいた日本の積極的な取組みを発信します。SFTの紹介プログラムも予定。

10月3日(土)・4日(日)
グローバルフェスタJAPAN2015 出展

日本最大級の国際協カイベントに、SFT紹介ブースを出展します。お台場 センタープロムナード(シンボルプロムナード公園内)にて。各日10:00~17:00(予定)。ぜひご来場ください。

【認定事業】10月17日(土)
開発と平和のためのスポーツセミナー

嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター主催。「開発と平和のためのスポーツ」という概念の普及と理解促進を目的に、実践例を紹介。国内外の第一線の専門家が登壇・ディスカッションします。

※各イベントに関するお問い合わせは、SFTコンソーシアム事務局までお願いいたします。

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム会員 (2015年9月11日現在)

- ・ 株式会社アシックス
- ・ NPO法人 アジアの障害者活動を支援する会
- ・ (一社) アスリートツサエティ
- ・ (一社) アフリカ開発協会
- ・ 認定NPO法人 アフリカ野球友の会
- ・ NPO法人 アルファバドミントンネットワーク
- ・ 浦和レッドダイヤモンズ株式会社
- ・ 株式会社エイチ・アイ・エス
- ・ (一社) Enije
- ・ 大阪大学
- ・ 大塚製薬株式会社
- ・ 大宮アルディージャ(エヌ・ティ・ティ・スポーツコミュニティ株式会社)
- ・ NPO法人 オセアニア地区スポーツ支援機構
- ・ オットーボック・ジャパン株式会社
- ・ (一社) 鬼ごっこ協会
- ・ 株式会社漫画家学会
- ・ (一財) 嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター
- ・ 鹿屋体育大学
- ・ 共立女子学園
- ・ (一社) 協力隊を育てる会
- ・ 近畿日本ツーリスト株式会社
- ・ NPO法人 柔道教育ソリダリティー
- ・ (公財) 高知県観光コンベンション協会
- ・ (公財) 講道館
- ・ NPO法人 国際協力NGOセンター
- ・ 国際武道大学
- ・ (一社) 国際文化交流協会
- ・ (株) サニックス
- ・ 株式会社志道館
- ・ NPO法人 ジャパンスポーツコミュニケーションズ
- ・ (一社) Japan Dream Football Association
- ・ (公社) 青年海外協力協会
- ・ セノー株式会社
- ・ 株式会社セレスポ
- ・ セントラルスポーツ株式会社
- ・ (公社) 全日本アーチェリー連盟
- ・ (公財) 全日本柔道連盟
- ・ (一社) 全日本テコンドー協会
- ・ (公財) 全日本ボウリング協会
- ・ 桐蔭横浜大学
- ・ 東京都オリンピック・パラリンピック準備局
- ・ 東京フットボールクラブ株式会社
- ・ NPO法人 Dooooo
- ・ Dreamers Japan株式会社
- ・ NPO法人 難民を助ける会
- ・ 日本アイススレッジホッケー協会
- ・ (公社) 日本ウエイトリフティング協会
- ・ (一社) 日本車椅子バスケットボール連盟
- ・ (公財) 日本ゲートボール連合
- ・ (一財) 日本国際協力システム
- ・ (公財) 日本サッカー協会
- ・ 日本障害者シンクロナイズドスイミング協会
- ・ (一社) 日本身体障がい者水泳連盟
- ・ (一社) 日本スポーツツーリズム推進機構
- ・ (公財) 日本セーリング連盟
- ・ (公財) 日本体育協会
- ・ 日本体育大学
- ・ 日本卓球株式会社
- ・ (公財) 日本卓球協会
- ・ (公社) 日本チアリーディング協会
- ・ (公財) 日本テニス協会
- ・ (公社) 日本トリアスロン連合
- ・ (一社) 日本バイアスロン連盟
- ・ (公財) 日本バドミントン協会
- ・ (一社) 日本パラサイクリング連盟
- ・ NPO法人 日本パラ・パワーリフティング連盟
- ・ (一社) 日本パラ陸上競技連盟
- ・ (一社) 日本パラリンピアンズ協会
- ・ (公財) 日本バレーボール協会
- ・ (公社) 日本パワーリフティング協会
- ・ (公財) 日本ハンドボール協会
- ・ (公社) 日本フェンシング協会
- ・ (一社) 日本フライングディスク協会
- ・ (公社) 日本プロサッカーリーグ
- ・ (一社) 日本プロ野球名球会
- ・ (公社) 日本ホッケー協会
- ・ (公財) 日本ラグビーフットボール協会
- ・ (公財) 日本陸上競技連盟
- ・ NPO法人 ネパール野球ラリグラスの会
- ・ 認定NPO法人 ハート・オブ・ゴールド
- ・ 株式会社日立ソリューションズ
- ・ 株式会社フォワード
- ・ 福岡県
- ・ 北海道
- ・ 丸紅株式会社
- ・ ミズノ株式会社
- ・ (公財) 民際センター
- ・ リーラス株式会社
- ・ 流通経済大学

計89団体

SPORT FOR TOMORROW ホームページにて、最新のお知らせや事業レポートなどを掲載しています。ぜひご覧ください。 <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

各種お問い合わせは、下記スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局までお願いいたします。